



鈴木 みどり 議員

今後、白鳥学区防災広場を どこにつくるのか

問

防災公園について聞く。

- (1) 22年度、白鳥学区に防災広場をつくるため、土地購入費として1億円以上の予算を可決したと聞く。

土地取得がうまくできなかった(ため、先送りした)と聞いているが、その後交渉はしているか。

- (2) 白鳥学区は市指定避難場所が3カ所しかないが、十四山地区は8カ所あり、人口はほぼ同じである。なぜ白鳥学区が後回しになったのか。

- (3) 佐古木、又八、栗平地区のJR線から南は、公共施設さえない。津波でどこに逃げたらいいのか。

- (4) 今後、白鳥学区の防災広場について、どう考えているか。また、つくるとしたらどこを考えているか。

国道1号とJR 間で選定したい

答 防災安全課長

- (1) 中斷している。
(2) 大震災以降、避難所の考え方が変わり、高さが必要である。

24年は栗南地区に避難場所を建設し、海に近い所か



避難所運営をどう 設計しているか

また、佐古木地区はマンション等が「津波・高潮緊急時避難場所」協定が結べていない。地元と協力しながら、避難場所確保も今後考えていきたい。

ら対応していきたい、次は十四山地区を考えたのが現状である。
(3) 当地区に限らず、避難所のない地域があることは事実で、承知している。
津波の市への到達は90分程度と予想されており、自主防災会で避難方法の検討を願いたい。
白鳥保育所「関連記事2面」が完成したときは、避難所として指定していく。
(4) 国道1号からJR線間が適切と思っているが、土地取得が難しい。高さを求め、小さい面積も勘案しながら、場所の選定をしていきたい。

問

防災について聞く。

- (1) 自主防災組織の立ち上げに、何かアドバイスはしているのか。

- (2) 避難所設計をどう考えているか。

- (3) 国は、プライバシーを保護できる仕切り等、女性二泊を踏まえた避難所対応を働き掛けているが、どう考えているか。

今後マニュアル づくりをする

答 防災安全課長

- (1) 結成段階の役員会や総会で市職員が出向き、説明もする。積極的に利用してもらえれば思っている。
(2) 避難所の運営、レイアウト等も必要になる。マニュアルづくりを今後行っていく。

- (3) 特にトイレが重要かと思っており、間仕切り等、難しい問題があるが順次対応していく。